

議会だより

16号



美浜の未来はまかせて!!

子育て支援センターでの1コマ

- 12月定例会…………… 2
一般会計補正予算を承認
- 各種委員会報告…………… 8
保健福祉センター指定管理者
制度導入
- 常任委員会の動き…………… 4
敦賀美方消防組合規約の変更を承認
- 耳地区防災訓練実施・編集後記…… 12
- 一般質問…………… 6
そこが聞きたい4人が質問

12月定例会 (12月6日～19日)

12月定例会は12月6日より12月19日までの14日間の会期で開かれました。一般会計補正予算など11議案を各常任委員会で審議の上、いずれも原案通り可決されました。又、追加上程された議案、県立ボートハウスの移転に伴う整備用地の「土地の取得について」が議決されました。意見書提出要請案件については「要支援者を介護予防給付から外すことに反対することについて」及び、「要支援者への予防給付(訪問介護・通所介護)を介護給付として継続することについて」の意見書を採択し、意見書を国会、関係機関に提出することとしました。

予算案件
●平成25年度美浜町一般会計補正予算(第4号)

**地域水産業活性化事業
日向定置網漁業組合の網新設
(日向瀬島沖だし)を支援**

●平成25年度美浜町介護保険事業特別会計補正予算(第2号)

●平成25年度美浜町集落排水処理事業特別会計補正予算(第4号)

●美浜町延滞金の割合の見直しに伴う関係条例の整備に関する条例の制定について

条例案件

●美浜町消費税率及び地方消費税率の改定に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について

●美浜町消費税率及び地方消費税率の改定に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について

●美浜町消費税率及び地方消費税率の改定に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について

●美浜町消費税率及び地方消費税率の改定に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について

●美浜町消費税率及び地方消費税率の改定に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について

●美浜町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

●美浜町母子家庭等医療費の助成に関する条例及び美浜町父子家庭医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について

●美浜町保健福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

●美浜町保健福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

●美浜町保健福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

**美浜町保健福祉センター
指定管理者を公募**

●美浜町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例の制定について

●美浜町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例の制定について

●美浜町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例の制定について

●美浜町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例の制定について

●美浜町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例の制定について

規約案件

●敦賀美方消防組合規約の変更について
敦賀美方消防組合の経費のうち、負担金の分担割合の見直しに伴い、規約の一部を改定するものです。

平成25年度 一般会計12月補正予算概要

予算規模	補正額	9,354万6千円	補正後 予算総額	78億9,920万9千円
(参考) 前年同期	補正額	7,593万4千円	補正後 予算総額	76億4,638万円

◎歳出補正予算の内訳(主要事項) (単位:千円)

款	主要事項	金額	事業概要等
民生費	子ども・子育て支援事業計画策定事業	8,500	子ども・子育て支援新制度に係る電算システム改修業務委託料
農林水産費	地域水産業活性化事業	75,000 2,500	定置網新設に伴う日向定置網組合への補助 竹波地区農業用排水施設整備事業
商工費	若狭美浜観光PR事業	10,559	観光案内看板設置工事費
土木費	案内看板整備事業	15,756	舞若道開通に伴う主要施設等への案内標識の製作及び設置費
教育費	美浜・五木ひろしまラソン準備事業	1,191	第26回大会に伴う準備経費(ポスター等)
人件費	職員人件費	▲27,749	職員人件費(▲25,301) 議員報酬等(▲2,448)

新年のご挨拶

美浜町議会議長 藤本 悟



謹んで新年のご祝辞を申し上げます。
皆様におかれましては、清々しく新春をお迎えのことと思います。旧年中は、町議会に対し温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、地方分権の進展とともに地方自治体の意思決定機関である議会の充実が強く求められております。昨年は「開かれた議会」を目指す取り組みのひとつとして、議会における審議の状況をお伝えするとともに町民の皆様と町の課題について意見を交換する「議会と語ろう会（議会報告）」を町内6集落で開催いたしました。

町民の皆様と語り合えたことで、町議会としての「責任」と「使命」をいっそう強く認識した次第であります。この「議会と語ろう会」でいただきましたご意見は、今後議員間で十分に議論し、町政及び議会運営に反映させていく所存です。

この「議会と語ろう会」は本年より年2回に拡大し、町内全集落での開催を目標に実施していく予定でございますので、その際にはぜひともご参加いただき、率直なご意見をお聞かせくださいますようお願いいたします。



10月臨時議会(10月17日)

10月臨時議会は、台風18号の災害復旧の必要性を受けて、10月17日開催されました。被害を受けた町内276箇所の災害復旧費用と、簡易水道、集落排水処理、公共下水道、上下水道の復旧関連費用の合計4億7,452万円を可決承認すると共に、放射性防護対策工事請負契約の2億6,499万円が承認されました。

尚、災害復旧工事は山林関連を除いて、26年の稲作作付けまでに実施される予定になっております。

平成25年度10月臨時議会補正予算 (台風18号災害復旧関連及び放射線防護施設工事請負契約)

(単位：千円)

会 計 名	金 額	事 業 概 要 等
一 般 会 計	424,340	町内276箇所災害復旧工事費等
簡 易 水 道 事 業 特 別 会 計	5,954	丹生・竹波・新庄災害復旧修繕費
集 落 排 水 処 理 事 業 特 別 会 計	3,192	農業・漁業集落排水施設災害復旧修繕費
公 共 下 水 道 事 業 特 別 会 計	2,205	施設改修工事費(災害復旧関連)
上 水 道 事 業 会 計	38,825	施設改修工事費(災害復旧関連)
復 旧 関 連 補 正 額 合 計	474,516	
放 射 線 防 護 対 策 工 事 請 負 契 約	264,989	丹生・菅浜地区放射線防護対策工事費

常任委員会の動き

各常任委員会に付託された案件と、おもな審議内容をお知らせいたします。

予算決算
常任委員会

付託案件3件

日向定置網事業、核燃料税交付金 (嶺南連携事業枠) 7千5百万円を拠出

●平成25年度美浜町一般会計補正予算(第4号)

歳出

〈民生費〉

問 職員の人件費の減で住民サービスの低下につながるのか。

答 主に人事異動等による増減で住民サービスの等低下の懸念はない。

〈農林水産費〉

問 漁業者の収入面が依然として厳しい状況にあることから、打開策として出荷調整用の生簀新設や6次産業の推進が図られている。日向定置網事業については、実際のところはどうか。

答 県の提案では当初、夏型定置網新設1億5千万円、生簀新設5千万

円、冬型定置網の延長に方針が変わった時から町が関与することになった。



日向定置網設置場所図

円をセットとして考えていたようだが、生簀は維持が難しいことから定置網事業のみを受けることになった。冬型定置網(沖だし)に当たったので事業総額は2億3千万円である。

問 当該事業について、これまでの経緯は。

答 知事が嶺南振興策として水産業振興を掲げ、各地区組合に当該事業について打診したが検討すると回答したのは日向定置網漁業組合だけだった。潮流調査の結果、既存の定置網の沖合にさらに延長する方向で経営シミュレーションを行い、組合が定置網の新設を決めた。町としても水産業振興の観点から支援したい。

問 定置網新設については県と日向定置網組合での協議によって進んでおり、当初町は関与していなかったというが、それならば町ではなく県の予算枠で対応すべきではないか。

答 当初は県と日向定置網組合で話が進んでいた。結局夏式では難しいということで、冬式定置網の延長に方針が変わった時から町が関与することになった。

〈商工費〉

問 観光客を呼び込む上でも安心して目的地に向かえるような看板整備が早急に必要なのだが。

答 舞若道プロジェクトにより、どのようにして美浜に来ていただくかを考えながら若狭への誘致活動に励みたい。

〈教育費〉

問 地区の活性化において地区公民館の役割は大きい。学校再編と併せてよい方向に進めていただきたい。

答 教育委員会でも課題として認識している。地区公民館のあり方について見直しは必要であり、今後は教育委員会をはじめ専門組織において協議したい。

歳入

問 定置網事業に核燃料税交付金を充てることについて、町長の考えは。

答 嶺南連携事業枠は全体を県で管理しているため、町の思惑だけでは決まらなない。今回の定置網新設に対する支援については地元日向も理解しており問題は無い。今後も第1次産業、第2次産業の発展のため、やる気のある団体には支援したい。



〈債務負担行為〉

問 仮に社会福祉協議会に委託する場合、社会福祉協議会に行っている人件費等の補助金はそのままか。また、指定管理に移行することで債務負担行為が必要になるのか。

答 指定管理に必要な経費は町が負担するというところで、年間の維持管理経費に3千万円、管理に必要な人件費に1千万円、合計4千万円を管理料の上限として設定する。基本的に年度毎に精算し、その都度協定を締結する。社会福祉協議会は有力な委託先候補だが、町から人件費の補助もしており、内容を精査し判断することになる。財源については一般財源で対応予定。公募する以上債務負担行為での設定が必要。(松坂記)



若狭みはま IC 完成予想図

誘客に効果を。観光案内看板を整備

●美浜町延滞金の割合の見直しに伴う関係条例の整備に関する条例の制定について

問 特例基準の割合はどのような場合に適応となるのか。

答 現在の経済情勢において高い金利が発生していないことから当分の間、特例規定を設けているものである。

●美浜町消費税率及び地方消費税率の改定に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について

問 消費税率の割合が8%になることで美浜町の割合はどれくらい増えるのか。財源の効果については来年度4月以降ということか。

答 現行の0.5%より0.35%増え0.85%になるが、金額に関しては納められた税金によって左右される。増えた分に関しては福祉面に使わなければいけないという規定になっている。額については消費が拡大すれば予算は増える。地方交付税が今後どうなるか具体的に決まっていないので、増えた分の地方交付税が下がる可能性もある。

●敦賀美方消防組合規約の変更について

問 基準財政需要額を基本に敦賀美方消防組合は負担金比率を算出したが、他の消防組合議会では他の判断材料も加味したうえで算出している。その点についての検討はされたのか。

答 敦賀美方消防組合では総合的に基準財政需要額を基本に算出した。当組合ではこの算出方法がベターであるという結論に至っている。これは三か年の平均にてその都度負担率を算出する事になっている。

問 消防救急デジタル無線化工事に対し従来の方式との違い、デジタル化のメリットとは。

答 ①秘匿性②多チャンネル③データ送信が可能になり位置情報等の確認が容易になる点。

問 消防救急デジタル無線化工事に係る6億5千万円の内、町はその内の17.3%の費用負担がかかるということか。

答 デジタル無線化移行の経費については、25年度中に契約等を結ぶことで国の財源措置がありそれを受ける形となる。
(松坂記)

産業厚生
常任委員会
付託案件4件
意見書審査4件

●美浜町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

問 国民健康保険税額の計算に配当所得は入るのか。

答 国民健康保険税の所得割額の課税計算に入る。

●美浜町母子家庭等医療費の助成に関する条例及び美浜町父子家庭医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について

問 この条例により、医療費の助成額に変更が及ぶのか。

答 助成額の変更は無く、文言変更のみである。

●美浜町保健福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

管理移行4月を目標に指定管理者公募

問 指定管理者に管理を任せていく規定であるのに、使用料の規定を明記する必要があるのか。ここは指定管理者の裁量に任せてもよいのではないか。

答 使用料の額は、地方自治法の規定により条例において定めなければならない。指定管理者に管理を委託した場合、定めた使用料を上限として指定管理者の裁量により設定できるが、使用料金の変更又は減額、減免、変換等は町長の許可を得なければならない。

問 新たに設置計画をしている福祉拠点化計画施設との兼ね合いはどのように考えているのか。

答 福祉拠点化計画施設は療育と、生活支援のサービスは賑わいを目的とした福祉センターのサービスとは別として考えている。

問 対象人員は何人か。

答 現在、発達障害で支援を受けているのは6人である。今後は支援の必要な子供たちと、その保護者に対する理解を深めながら進めていく。

問 指定を受ける管理者によって要求する管理内容に差が生じないのか。

答 これまでの地域福祉活動の経験をふまえて、しっかりと事業計画書を提出

していただく予定である。

●美浜町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例の制定について

問 使用料金を決める基準はあるのか。

答 美浜町は丙地域に当たり、その基準で決めている。

〈意見書案件〉

●要支援者を介護予防給付から外すことに

反対の意見書(意見書提出要請)

●要支援者への予防給付(訪問介護・通所介護)を介護給付として継続することについて

の意見書(意見書提出要請)

については今後とも手厚い支援が必要なことから採択し、意見書を提出することを決定した。
(浜野記)



保健福祉センター「はあとぴあ」

質 問

12月定例会では4人の議員が一般質問に立ち、町行政の有り方について、問いました。



松坂 隆司 議員

災害に強い美浜町に



問 「災害後」の対応だけでなく「災害前」の予防対策が本来の意味での防災として重要であると考え、将来に対してどう考えているか。

問 町の地域防災に関する基本的考えは。

町長 防災ハンドブックの町民への啓蒙、危険箇所を知る為の各種マップを配布することを進めている。他にも防災行政無線、緊急告知放送、さらには緊急速報メールなど地元での自主防災をベースにして、防災の意識醸成を図る上で、各地域での自主防災組織の立ち上げに力を入れている。

問 各地区の活動の中で地域住民に對しどう理解を深めてもらうか。

総務課長 平時では災害を想定した避難訓練。災害予測時については気象予報の向上に對した対策や住民に對して避難勧告等の対応が必要。自らの身は自らで守る、家族のことは家族で話し合う、地域のことには地域で要援護者や御高齢の方をどうするかも含めて、常日ごろから区長会等を通じてお願いしている。

問 「災害後」の対応だけでなく「災害前」の予防対策が本来の意味での防災として重要であると考え、将来に対してどう考えているか。



竹仲 良廣 議員

耳川河川整備 ・上流堆積土砂の浚渫を県に要望 ・旧耳川橋の改修を急ぐ

問 台風18号で大きな被害を受けた耳川は、いまだに濁っているが今後の改修の予定は

町長 平成26年1月末までに全ての改修工事の発注をしたい。濁りの元となっている基礎部分は3月末までに終了したい。

町長 自分の命をいざというときに、どう守るかを知ってもらう事が重要であると考えている。町では水害や津波も含め土砂警戒についてはレッド・イエローゾーン等の状況を踏まえ、町民の啓蒙をやっていく必要がある。

問 危機管理の基本を住民に對し、今後どう周知させていくのか。

総務課長 地震等で家具の転倒などで亡くなる方の確率も高く、様々な災害でも減災や防災の観点から、ちょっとした機転で自分の命や家族の命を守ることが出来る。余りお金のかからないように対応できる事を、防災意識の向上とあわせ、あらゆる機会を通じてお願いしている。

問 災害時に町に訪れている観光客や出張者、外国人等の対応と対策は。

堆積土砂の浚渫は順次取り掛かりたい。

問 砂防堰堤に堆積した土砂の浚渫について、検討中の栗柄谷小水力発電所の設置費用を捻出(約3億円)し、売電予測額(約3千万)を有効活用して管理費、浚渫費とし、徐々に川を保全していくことを提案したい。

町長 エネルギー環境教育の観点からも小水力発電の設置を考えるべきだと思う。現在行っている可能性調査の結果を見て考えたい。

問 台風時、耳川の橋桁に多くのガレキが堆積し、氾濫の危機があった。今後どうするのか。

土木建築課長 現在、架け替えの為の測量調査を実施中であり、橋脚を9箇所から3箇所にする計画である。県との協議がすみ次第、事業にかかりたい。

総務課長 防災行政無線における屋外拡声機での周知、携帯電話会社の緊急速報メール等にて防災情報を配信する。状況により現地パトロールや広報車を通じて一時滞在者の情報をカバーする。屋外の防災無線による警報的な意味で、日本語がわからない方にも異常を認識してもらえと考えている。

意見 防災活動は地域活動の一つ、災害という見えない幽霊に對し地域防災が少しでも進み、町民が安全・安心で暮らせるように戦略を立てることが理想。



行政と町民のまちづくり協議の推進 ・住民に参画、参加を促したい。

問 施設、設備の多くは行政主導で行われているが、もっと地域の住民の考えや提案が組み込まれる施策に持っていくべきでないか。

町長 地域住民の意見を聞くということやハートフル対話を実施している。又いろんな施策実施に当たって町民に参画していただき、案を出してもらうように心がけている。

問 町民の町政への参画を目的としてパブリックコメント(町民意見募集)を行っているがこれまでの状況はどのようなになっているのか。

企画政策課長 美浜町はこれまで6件の募集をしたが意見は出なかった。

問 それらは、都市計画構想や、振興計画に関するもので関心が薄かったのではないか。今回のエネルギー環境教育施設建設等、多額の費用がかかる物こそパブリックコメントを募集すべきと考える。

企画政策課長 エネルギー環境教育施設建設についてパブリックコメントは実施していないが、ハートフル対話において説明はしてきた。ご意見を尊重し今後検討していきたい。

問 地区や住民が町の事業に直接参画できるシステムを作ってはどうか。事業や改修に関する自由な提案を募集し、審査委員会が審査し、採用案件を事業化する。費用は住民税の約5%程度とするようなシステムをつくれればまさに協働の町づくりが出来る事となる。

町長 以前に類似した内容で実施した経緯があるが、住民の参画・参加は基本的に賛成である。次期の振興計画に反映させたい。

質問、返答については質問者の
文責で掲載しております。



浜野 健治 議員

平成27年度に 美浜町小学校を3校に再編

美浜町の小学校再編の必要性は

町長 美浜町の人口の減少と少子化に伴い、児童の教育環境をどうしていくかを美浜町学校教育環境検討委員会を設けて検討して頂いた。アンケートや学校教育課で実施した懇談会等で、住民保護者の同意が得られたものと考えている。

個の力を伸ばし 集団で生きる力を育成

問 美浜町の児童、生徒をどのように教育していくのか。

教育長 県内の20人以下の小規模校13校の中に美浜の3校が入っており、今後完全複式学級になることから再編に踏み切った。低学年で個の力を育成し、高学年で小規模校で学べない集団での協調性、たくましさ、社会で生きていく力を育みたい。

問 小規模校のメリット、デメリットは何か

学校教育課長 メリットは・個々に合った、きめ細かな教育が出来る・行事等を通じて、地域とのつながりが出来る等々である。デメリットは・集団の中で切磋琢磨する競争力が生まれにくい・多くの人と付き合う協調性が生まれにくい等である。

問 学力の低下につながるのか、底辺の引き上げと上位の伸張をどのように考えているのか。

教育長 底辺引き上げには丁寧な教育を、上位伸張には鍛える教育をバランスし考えていく。

学校教育課長 低学年には手厚い教育をしていくため、学習支援員、生活支援員を配置していく。

問 再編される地域からの通学距離が長くなることへの対応は。

学校教育課長 不登校への対応、臨時休校とするための目安、急病の連絡手順、地域行事参加のための手続き等を定



宮下 紀興 議員

TPPによる町内一次産業の影響は 国の動向を見ながら対策を考えていく

問 一次産業の支援体制はどうなのか。

町長 一次産業は町の基幹産業であるという思いから各種支援を行っており

めて実行する。

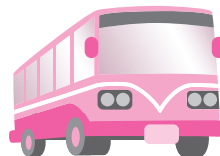
教職員は大幅減少

問 教職員の配置等を含めた経済効果はどうなるのか。

学校教育課長 基準に照らしあわずと教職員の数は約48%減少する。教職員の人員費は県費である。町としては施設維持管理費が減少するが、スクールパス等の経費が発生し相殺される。

問 施設の跡地利用について計画はあるのか。

町長 丹生小学校はエネルギー環境教育体験施設として計画している。他は今後有効活用を検討する。



り、特産品化への支援も行っている。

農林水産課長 サツマイモの加工、米粉の加工等取組んでおり、来年度から体制を整え、県等の支援をいただきながら推進していきたいと考えている。

問 町内の福祉施設の充足率、待機人数は。

福祉課長 充足率はほぼ100%、待機人数は平成25年10月時点で10名。1年を目処として入居出来る。

問 デイサービスセンターはほぼえみについて、利用者は2階で過ごされているが、防災の点から1階で過ごせるような安全な施設に建て替える予定はないのか。

福祉課長 毎年関係機関と問題を確認しながら避難訓練を行っている。さらに

11月に避難経路の確保を行い、これまで以上にスムーズに避難できることを確認している。今後も関係機関と協力しながら、安全の確保に努めていきたい。

問 以前大雨等で被害を受け対策実施中の日向区西地区奥で、前回の台風で新たに災害があったが現状はどうなっているのか。

土木建築課長 東地区については今年から工事を行う予定。西地区については、東地区が終了後、県事業において整備を行う予定です。西区奥については、昨年から進めている。上流から工事を進めて行きたい。

問 県道日向入口の法面崩壊箇所について、通学路になっていることから出来るだけ早く工事を行うべきではないか。

土木建築課長 県道になるため県が復旧を行う。年度内には工事の発注を行うとのことでした。

問 日向区東側からレインボーラインに通じる道の拡幅についてどうなっているのか。

学校教育課長 当該地区は名勝三方五湖保存管理区域の2種から4種に指定されており文化庁の許可が必要になるが、当該道路の現状変更の許可は難しい面がある。現在日向地区の災害避難道路としての考えで関係課と協議中です。



各種委員会報告

【議会全員協議会】

さらなる賑わいをめざして保健福祉センター (はあとぴあ)の指定管理者制度導入

住民福祉の増進及び福祉意識の高揚を図るとともに、町民の健康増進と保健衛生に寄与することを目的に建設され運営されてきましたが、指定管理者制度の導入により、より効率の高い利用と町の行政改革をすすめる事とし、その為の設置及び管理条例を改正することとなりました。

施設の管理・運営上における現状の課題として、

- (1)施設の運営強化
 - ①いきがい活動・身体障害者等の援護に関する業務の充実・強化
 - ②施設の賑わい創出
- (2)保健事業と他の事業との連携強化

等がありますが、民間活力の導入により、施設の賑わいを図り、住民の交流の輪を広げ、いきがい・福祉の輪が広がることにより健康づくりの輪がさらに広がることを狙っております。また、健康づくり課の業務が本庁へ移転することで、更なる健康づくりの充実や、住民

サービスの向上させ、申請事務手続などがワンフロアで出来るよう行政サービスの向上を目指しております。

しかし、現在の同施設への町民の皆様方の幅広いニーズにお応え出来る施設になるためには、指定管理者に下駄を預けるだけでなく、今後とも町民皆様方のご協力を頂きながら、更なる努力が必要かと考えます。
(兵庫記)

旧図書館跡地利用にして 福祉拠点化施設を整備

これまでから、子育て支援と障害者福祉における福祉サービスの隙間を埋める必要がありました。町でもそれらの支援の為の予算を計上し支援に当たってまいりましたが、施設の整備にまでは到っていませんでした。施設的課題の中でも、緊急性が高い①気がかりな子どもへの早期支援体制②療育体制の確立③生活支援サービスの拠点づくりの課題に対応し、だれもが安心して住める町づくりの

ために係る施設の整備が急がれておりました。そのため、この度同施設跡を利用した施設の施設整備を計画されましたが、耐震性が現在の基準に適合しないこと等、改修費に巨額の費用がかかること等が明らかになりました。そのため、「発達支援サービス」と「生活支援サービス」の2つのサービスが一箇所で提供できる施設を、建替え(鉄骨平屋建て)により整備することになりました。

地域水産業活性化をめざし 日向定置網を増設

県として原子力発電所の稼働停止が長期にわたり、特に嶺南地域における地域経済の低迷が深刻さを増してきていることに対処する為、実施を決定したもので

福井国体ボート競技のため 県立ボートハウス用地取得

2018年の2順目の福井国体開催に当たり、美浜町はボート競技の会場を受け持つことになっております。そのため、北小学校隣の老朽化した県立ボートハウスの整備が課題になっておりました。建物とボートコースは県において整備しますが、用地は地元が提供する事になっており、国体誘致決定後、数年前から用地探しを進めておりました。

同地を取得活用することで、既存の町のボート・体育施設等と一体的に利用できる環境の整備を行い、今後のボートへ

す。特に水産業は漁獲量・消費の減少や、高齢化・後継者不足など課題を抱えております。その対策として、定置網の新設や体験型観光漁業等での漁業の振興、今後においては加工施設等を一体的に整備することにより、水産物の付加価値を高めることを目的としております。また、漁業経営の安定的な発展確保に取組み、体験や観光事業との連携を図り、地域活性化を推進しようと考えての事業です。県では嶺南地域の漁業組合に事業の受け入れを打診した日向定置網漁業組合に決定したと言うことで、同組合としても、自己負担が必要であり、採算性を考慮し、潮流調査等を実施して事業の受け入れを決定されたと言うことです。事業の成功と地域の活性化に繋がることを期待したいものです。



移転される県立ボートハウス

▽競技などの利便性を高めると共に、梅街道沿いの観光資源等の整備にも繋がる可能性も有ります。(兵庫記)

【原子力発電所特別委員会】

平成25年11月12日原子力発電所特別委員会が開催されました。協議事項は

(1) 美浜発電所の概況について

関西電力株式会社 美浜原子力発電所 防災室長から以下の説明を受けました。

- ① 美浜発電所の概況
- ② 関西電力の原子力発電の状況
- ③ 原子力の信頼回復の取り組み
- ④ 美浜発電所における安全性・信頼性向上の取り組み状況

委員からは、3号機の再稼働について、使用済み燃料の乾式キャスクでの保管、原子力緊急事態支援センターについてなどの質問がありました。

(2) 日本原子力研究開発機構の改革計画について

日本原子力研究開発機構敦賀本部所長から改革計画及び取り組み状況の説明を受けました。

委員からは、「ふげん」の廃炉措置の進捗状況、「もんじゅ」の実証炉の可能性について、高レベル放射性廃棄物の

処分について、安全強化のために追加した予算内訳の説明、保守管理の点検職員の意識改革についてなどの質問があり課題の指摘をしました。(松田記)



美浜発電所

【議会活性化特別委員会】

議会活性化の先進地を視察

9月27日新潟県阿賀町議会へ視察研修に行きました。調査事項として①「議会報告会について」②「議会基本条例を中心とした議会改革の取組みについて」を研修してきました。

会議は阿賀町議会の副議長の他3名で説明を受けました。

「議会報告会」の開催趣旨として、地方分権・地域主権が進められる中、団体意思決定機関として果たすべき役割は益々重要となってきており、とりわけ自己決定、自己責任が強く求められる中であって「住んで良かった町」「安全で安心して暮らせる町」と言われる町づくりを進めて行くのが最も大事なことで、議会活動の内容を地域に向向いて町民の皆様へ直接報告説明し、町政に対する情報の提供に努めるとともに議会活動に対する批判や意見、提言などを直接お聞かせいただく場として議会報告会を開催し議会活動の向上と強化を図り、今後の町づくりを反映させるということでした。報告会の内容としては、各定例会の議案の説明、活動内容、ご意見及び要望を聞くということでした。

議会基本条例については、議員により構成される合議制の議会と独任制の機関である町長とともに2元代表の一翼を担う機関としてそれぞれの異なる特性を活かして町民の意思を町政に的確に反映させるために議会及び議員の活動原則等の基本事項を定め町民の付託に応え、活力ある町を作るとともに信頼される議会を築くために条例を制定するということでした。内容としては、「議会及び議員の責務」「議会の活動原則」「町民参加」「自由討議の拡大」等を定めるものでした。

まだ美浜町議会では議会基本条例は定められていませんが、研修、視察など勉強し、議会基本条例を制定しなければならぬと考えています。

▼議会活性化として「開かれた議会」を目指す取り組みとして、町内の集落へ直接出向き、9月定例会、10月臨時議会の議案、町の課題について意見交換を行い議会運営に反映することを目的とし、3班に分かれ「議会と語ろう会」を11月19日、26日に計6集落で開催しました。各集落をそれぞれの意見をお伺いし、意見交換も含め大変有意義な会となりました。

今後も「議会と語ろう会」を開催し、皆様のご意見をお伺いしながら美浜町の発展に努めていきます。(崎元記)



「議会と語ろう会」(竹波区)

その他 活動報告

【議会運営委員会視察研修】

議会基本条例(北方町) 通年議会(津幡町)を研修

開かれた住民に分かりやすい議会を目指し、岐阜県北方町議会へ議会基本条例の制定と議会の運営についての研修を行いました。議会基本条例を岐阜県でいち早く取り組み、町長に反問権を付与して



石川県津幡町議会視察研修

いる。また議会議員政治倫理要項を作成し、議員は補助金団体の長に就任しないことや工事の請負業者を辞退するように申し合わせています。住民には議会活動報告を年1回以上開催し意見交換をされています。また翌日は石川県津幡町議会へ議会改革と通年議会の取組みについて研修しました。議会改革では、予算の概要をより深く理解して審査するため説明資料を事業単位の詳細なものにして内示すること、美浜町では事前に予算の目玉については説明がありますし、通年議会はこれからの研究課題として議員全員で議論していきたいと考えています。(樋下記)

【公立小浜病院組合議会】

地域に根ざした医療を学ぶため 兵庫県災害医療センターを研修

11月6日、兵庫県災害医療センターへ視察研修に行きました。所在地は神戸市中央区で平成15年8月1日に開設されました。

- 運営は日本赤十字社兵庫県支部を指定管理者として委託。
- 開設時から、救命救急センター、基幹災害拠点病院の指定を受ける。
- 平成15年10月、協力型臨床研修病院の指定を受ける。
- 平成18年6月、高度救急センターの指定を受ける。

診療科目は11科あり病床数は30床、職員数140名
設備は患者生体情報システム、CCT装置、血管連続撮影装置、ドクターカー、超音波診断装置、人工心肺装置、無菌病室ユニット、等その他多くの設備が整っていました。近くにこんな病院があると安心して生活できるなと思いました。(倉田記)

第5回議会開催 定期議会で3議案を承認

11月25日第5回公立小浜病院組合議会が招集されました。

会期は11月25日から12月25日
議案第11号 平成25年度公立小浜病院組合事業会計補正予算について



レイクヒルズ美方病院

議案第12号 公立小浜病院組合病院事業の設置等に関する条例の一部改正について
議案第13号 杉田玄白記念公立小浜病院の組織に関する条例の一部改正について

3議案上程され常任委員会に付託されました。

12月25日議会が再開され、常任委員長報告の通り可決されました。公立小浜病院組合教育委員会委員の任命について追加提案され、小浜市の辻弘美氏が任命されました。

院外広報誌「いきいき」全戸配布

杉田玄白記念公立小浜病院では院外広報誌「いきいき」が発行されていますが、平成25年12月発行号より、嶺南各町に、各地区区長様より全戸配布していただくことになりました。(倉田記)

【敦賀美浜地域開発協議会視察研修】

北陸新幹線開業に合わせた あわら市の対応を研修

11月21日に敦賀美浜地域開発協議会委員で福井県あわら市へ視察に行きました。

目的は北陸新幹線開業に向け、官民一丸となって地域の活性化に取り組みあわら市を視察する事により、観光資

源の開発等互いに直面する課題について共通認識を持ち、今後の両市町の発展・施策に寄与するため。

内容は北陸新幹線金沢開業に向けた取り組みについての概要説明を受けた後、あわら温泉に移動して、あわら湯けむり創生プロジェクトの概要説明を受けました。最後にあわら市湯のまち駅、屋台村「湯けむり横丁」、「藤野巖九郎記念館」を見学させていただきました。美浜町でも将来計画を事前に決めておくことが大切と感じました。

(倉田記)

〔関西電力原子力発電所立地

町議会連絡協議会視察

(平成25年10月28日)

原子力発電所停止の代替となる関西電力株式会社 火力堺港発電所及び堺港太陽発電所を視察研修しました。

関西電力火力堺港発電所

天然ガスを燃料としたコンバインドサイクル発電方式の火力発電所で、発電出力は200万kw(40万kw×5台)。平成21年4月から運転開始をしています。平成10年から発電を行っていた火力発電方式は、現在発電を停止しています(25万kw×8台)。

火力発電には、火力発電方式とコンバインドサイクル発電方式があります。火力発電方式は、ボイラーで天然ガス

などの燃料を燃やし、大量の蒸気を作り蒸気タービンに吹きつけて発電。

一方、コンバインドサイクル発電方式は、天然ガスを燃やし、その高熱・高圧の燃焼ガスでガスタービンを回し、ガスタービンからの排気ガスの排熱を利用して蒸気タービンも回して発電をすることで効率のよい発電方式となっています。コンバインドサイクル発電へ設備更新することによって、エネルギー効率は40%アップしCO2排出量は30%削減できます。

環境対策には、窒素酸化物を取り除くために排煙脱硝装置を設置し、発電



堺港発電所視察研修

所の敷地面積約76万平方メートルの約26%を緑化しています。また、地域の植樹活動へも力を入れています。

関西電力堺港太陽光発電所

平成22年9月から営業運転を開始しており、発電出力は1万kw(一般各家庭の約3000世帯の年間電気使用料に相当)。

敷地面積約21万平方メートルに約7万4000枚のソーラーパネルを設置しており、日本最大級の規模で、総工費は約35億円。

この土地は大阪府の産業廃棄物埋立処分地で、借地しています。CO2削減量は、年間約4000トンになる見込みで、低炭素社会に向けた取り組みを推進しています。

(松田記)

〔美浜・三方環境衛生組合〕

汚泥再生処理センター 基本計画を策定

平成25年、第4回美浜・三方環境衛生組合議会定例会が12月2日美浜町議会本会議場で開催された。提出議案は平成24年度美浜・三方環境衛生組合一般会計歳入歳出決算の認定であり、歳入総額7億9321万7千円、歳出総額7億8440万4千円、差引残額881万3千円を可決承認し、差引残額は平成25年度へ繰り越すこととしま

した。施設稼働から23年を経過した「美方し尿処理場」についてはコンサルに委託し「美方し尿処理場精密機能診断」を実施すると共に「し尿処理施設整備計画検討業務」などの調査・検討を実施し、今後環境省の循環型社会形成推進事業計画の対象事業となることと決定しました。用地については「原子力緊急事態支援組織」の誘致用地との関連で、新たに選定が必要になるとの事で今後検討される。これらは「汚泥再生処理センター基本計画等策定業務」に盛り込まれることになっています。

(浜野記)



美方し尿処理施設

議会の動き

10月2日	議会運営委員会視察研修(3日)
6日	美浜町防災訓練
8日	公立小浜病院組合議会 監査委員全国研修会(9日)
17日	第5回町議会臨時議会 議会運営委員会
20日	第26回美浜町民レガッタ
22日	嶺南市町議会議長会知事への要望活動
28日	関原協視察研修
30日	市町県議会議員合同研修会
11月6日	公立小浜病院組合視察研修
11日	嶺南広域行政組合視察研修
12日	原子力発電所特別委員会
13日	県選出国会議員への要望活動ほか
19日	第57回全国議長大会 議会と語ろう会(郷市区・竹波区・野口区)
21日	敦賀美浜地域開発協議会視察研修
25日	福井県後期高齢者医療広域連合議会
26日	公立小浜病院組合議会
27日	議会と語ろう会(日向区・山上区・河原市区)
29日	全員協議会 議会運営委員会
12月2日	美浜三方環境衛生組合議会
6日	第6回美浜町議会定例会(全協・本会議)
9日	第6回美浜町議会定例会(一般質問)
10日	予算決算常任委員会
11日	総務文教常任委員会
12日	産業厚生常任委員会
16日	全員協議会 議会活性化特別委員会
17日	現地視察
19日	第6回美浜町議会定例会(全協・本会議)
26日	敦賀美浜行政組合 全員協議会・本会議 嶺南広域行政組合 全員協議会

今年も耳地区で 防災訓練を実施



10月6日(日)に美浜町防災訓練が実施された。災害想定は午前7時に美浜町を震源とする震度6強の地震が発生し、家屋の倒壊、火災、道路の損傷等、甚大な被害が発生したとの事であり、耳地区17集落の住民の方々の参加をいただき、弥美小学校グラウンドにて実施した。

(山口記)

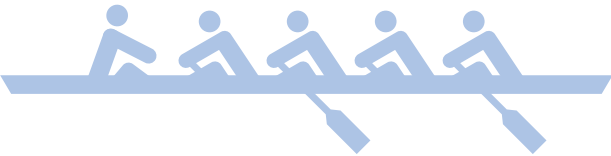
惜しくも優勝に届かず

第26回美浜町民レガッタは平成25年10月19日、20日に開催された。議会クルーは、石川県つばたレガッタでは3連覇などの成績を上げているものの、未だ優勝の経験はなく町民レガッタでは今回もおしくも2位であった。来年以降に期待したい。

(山口記)

議会クルーの成績

議会Aクルー 敗復活
議会Bクルー 2位



12月定例会現地視察



舞鶴若狭自動車道の三方ICから美浜町内耳川橋までの区間と産業団地候補地並びに山上宅地造成候補地の現地視察を行いました。舞若道は美浜町管内においての進捗状況は、ほぼ完成したとの報告(工事出来高80%)だが、表層部分の舗装と敦賀市の笹の川橋の完成を残しているとのことである。(この議会だよりを読んでいただく頃は橋も全面つながっている様です。)

産業団地候補地は、若狭みはまICの西に位置するところであり、区域面積は12haである。

山上住宅造成候補地は、佐田地区の西、山上地区の北に位置する区域面積3.5haである。産業団地、住宅造成は平成27年度に造成工事の予定です。同時に太田川の台風災害区域を視察しました。

(山口記)

後記

昨年を振り返れば再登板した安倍晋三首相が掲げた経済政策「アベノミクス」に翻弄(ほんろう)された様な思いが強い。と新聞に掲載されている様に、各々が景気回復の期待ばかりで年の瀬を迎えたのでは無いでしょうか?

この町にまでこの景気の影響はどうだったのだろうか...

100年に一度という言葉まで出る様な災害にみまわれ、補正予算を組んでの対処、しかし今年は「午年」で3月には議会も改選を迎える年である。新たな出発、いい年でありたいものです。

(山口記)

美浜町議会広報特別委員会
【委員長】 山口 和治
【副委員長】 浜野 健治
【委員】 松坂 隆司・崎元 良栄・竹仲 良廣・倉田 愛子



訂正とおわび

議会だより15号2頁題字

平成25年度決算を認定
平成24年度決算を認定